

ハネナガフキバッタ

汗まみれで仕事を終えて、終礼場所に向かって歩く足元から小さなバッタが跳ねました。イナゴのような外見ですが、少しこぶりで、スレンダーな感じなのです。有明のササ刈り跡地のような環境にイナゴがいるわけもないので、捕まえて撮影しました。帰宅して調べた結果、ハネナガフキバッタと判明しました。撮影日時は2016年9月27日13時50分でした。



ハネナガフキバッタは体長♂は20~31mm、♀で24.5~39mmとかなり個体差があるようです。この個体は♂ではないかと思われます。分布はほぼ日本全国。離島では利尻、礼文にもいるとのこと。活動時期は7~10月。食草はフキ、ヨモギ、タンポポ、オオバコ、ギシギシ、イタドリ、ハルニレ、シラカバ等の葉とのことですから、結構雑食しているわけで、有明ではハルニレの実生幼樹の害敵なのでした。周りにフキがありますので、願わくばそちらで食欲を満たしてください。

ちなみに、イナゴの食草であるイネ科やカヤツリグサは食べないとのこと。姿は似ていても明確にイナゴとは別種なのであります。澄川でも駐車場地でしばしば見かけます。



ネットで見つけた幼虫の写真をご覧ください。フキの葉に群れて食べつくしている様子はフキバッタ仲間に通ずる習性です。過去に有明で見たことがありました。

この日の有明ではクマの新しい活動の跡が確認されました。また、エゾシカの足跡やヌタ場が最近切開いた作業道の上にあります。ヤチダモの稚樹の芽を食べる不届きものなので、クマに追い払っていただきたいと思うのであります。

移動式チップパーで、刈払ったチシマザサを粉砕する作業をしていて、そのボサの中からカラスヘビが2匹も出てきました。先に出てきたのを捕まえて近々と点検しました。体長50cmほどの人間に例えると小学生レベルの子ヘビで、同じ腹からの兄弟だと思われます。放免してやりますと、静々と斜面を下り、森の方に消えてゆきました。

以前にカラスヘビについて書きましたように、種としてはシマヘビでその装い違いで黒い色が濃い個体なのです。つい先日新幹線の客室座席の上で見つかったヘビはシマヘビと報道されましたが、個体の模様はかつて見たことがないので、外国産の別種ではないかと個人的に思っています。人間が持ち込んだにちがいはありませんが、ヘビに罪はありません。

